



足立区

足立区長定例記者会見

平成23年11月24日(木) 午後2時00分～
足立区役所 南館8階 特別応接室

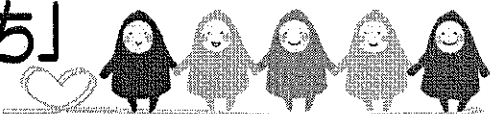
《 次 第 》

- 1 オウム真理教の観察処分更新を求める署名活動と今後の予定
- 2 鹿沼野外レクリエーションセンターの廃止等について 1
- 3 より積極的な高齢者支援
身寄りのない高齢者支援事業を試験実施 2
- 4 自殺対策都市型モデルの完成をめざして
あなたの悩みを安心へ「つなぐ」シートで一步踏み込んだ連携・ 4
- 5 観る訓練から実践する訓練へ
想定外をひとつでも減らしていくために 7
- 6 農地保全と農業者の経営力強化のために
足立農すくーる(農業体験型農園)が3月に開園します 10
- 7 そ の 他
- 8 質 疑

【担当】広報室 報道広報課 03(3880)5816

「美しいまち」は「安全なまち」

ビューティフル・ウィンドウズ運動展開中 足立区



鹿沼野外レクリエーションセンターの廃止について

1 理由

- 施設の経年劣化が進み、改修の時期を迎えている
- 事業収支について、厳しい状況が続いている
- 同種の施設が各地にあり、利用者の減少が続いている

→こうした状況を総合的に勘案し、足立区野外活動施設条例を廃止する議案を提出（平成24年3月31日廃止予定）

2 施設概要

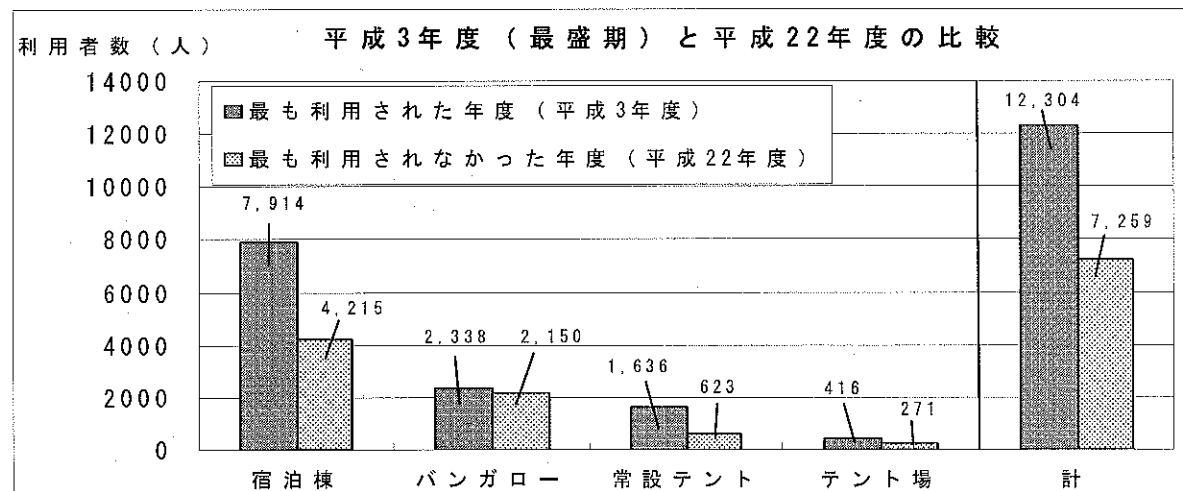
【開設】 昭和59年（1984年） 築27年

【施設】 宿泊棟、バンガロー、テント場、体育館、グラウンド、テニスコート、ゲートボール場

3 運営実績

開設以来の利用者総数は、約25万人

最盛期は、平成3年度に年間1万2千人を越えたが、その後は低迷



4 運営経費（平成22年度決算より）

【収入】 14,949 千円（施設使用料：6,342 千円、食材費：8,607 千円）

【支出】 65,990 千円（委託料等：59,383 千円、光熱水費：4,860 千円、修繕費：1,747千円）

【問合せ先】 地域のちから推進部 地域文化課長 鈴木 伝一
電話（3880）5985



足立区

定例記者会見資料
平成23年11月24日
福祉部福祉管理課
中川課長(3880)5871

より積極的な高齢者支援 身寄りのない高齢者支援事業を試験実施

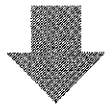
早いスピードで高齢者人口が増加する中、様々な高齢者のニーズに応じていくため、区では新たな取組みを進めていきます。

1 身寄りのない高齢者支援事業

権利・財産の擁護が受けられていない身寄りのない高齢者のため、区・NPOが連携して、定期訪問や金銭管理状況確認といった支援を行う事業を試験実施します。

(1) 背景

- 身寄りのない判断能力が低下した高齢者の金銭管理について、適正に実施していることを監督できなかった
- 身寄りのない判断能力が低下した高齢者への介護サービスについて、適正で効果的に提供していることを監督できなかった
- 施設入所後に判断能力が低下した高齢者に対して、必要な場合に成年後見制度を活用する方策が確立されていなかった



足立区・NPO・介護保険施設が連携することで

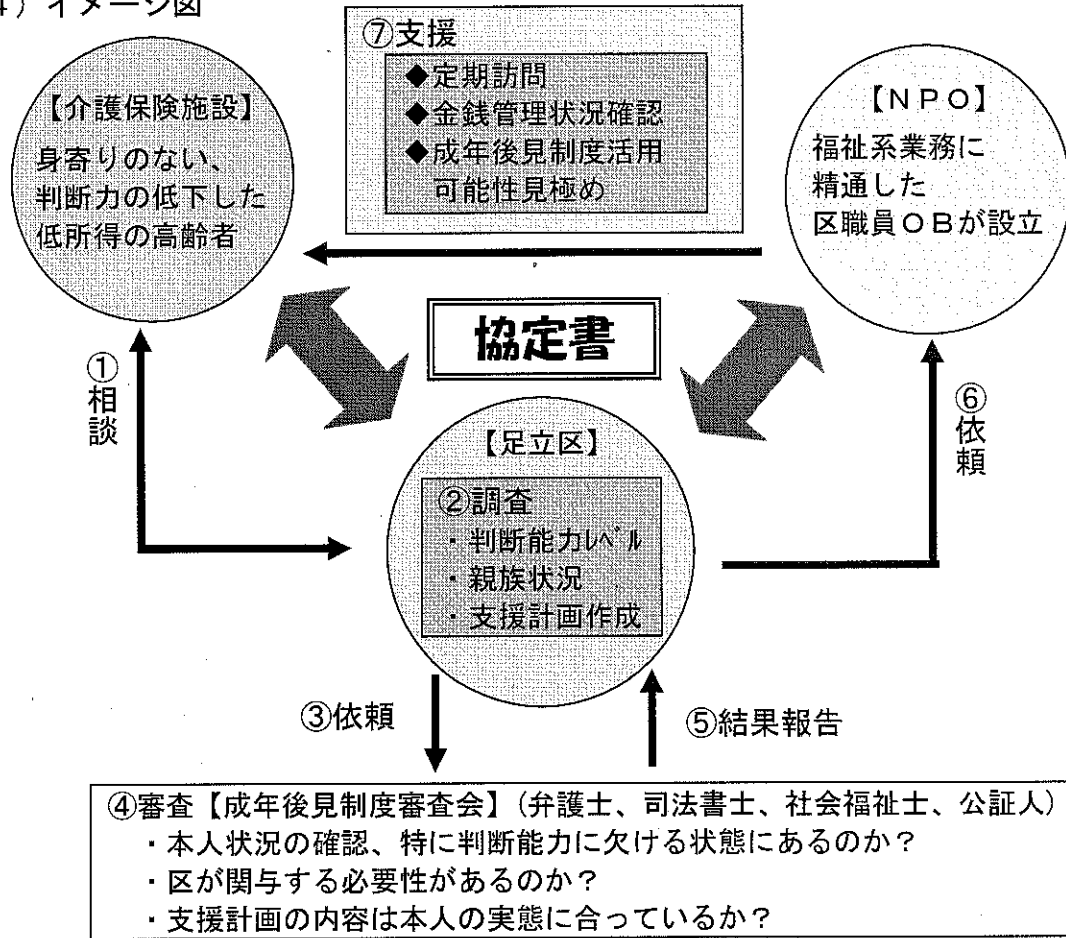
(2) 特徴

- 金銭管理の適正さを確認することができる
- 施設サービスの適正さを確認することができる
- 医療サービスへのつながりが円滑になる
- 身寄りのない判断能力の低下した高齢者が、必要に応じて円滑に成年後見制度を活用することができる

(3) 今後

- 11月下旬から支援を開始（～平成25年3月までの試験実施）
- 区内特別養護老人ホーム入所者を対象に支援
- 試験実施後、蓄積されたノウハウ等に基づいて、他の介護保険施設入所者やその他のケースに適用できるかを検証

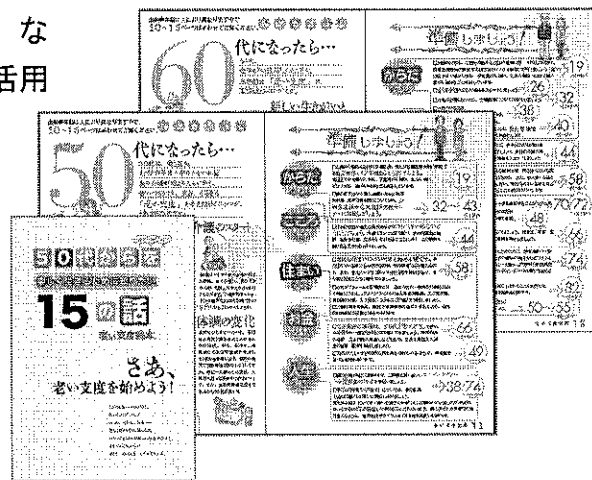
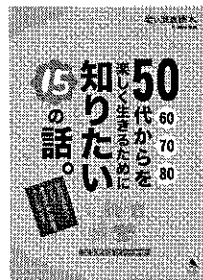
(4) イメージ図



【問合せ先】 福祉部 中部中地区担当課長 田口 仁美
電話 (3880) 5269

2 古い支度読本「50代から楽しく生きるために知りたい15の話」

50代からの“からだ” “こころ” などについて、提案だけに留まらず、活用できる区の制度や関連施設を紹介。



【問合せ先】 福祉部 古い支度推進担当課長 金子 敬一
電話 (3880) 5886



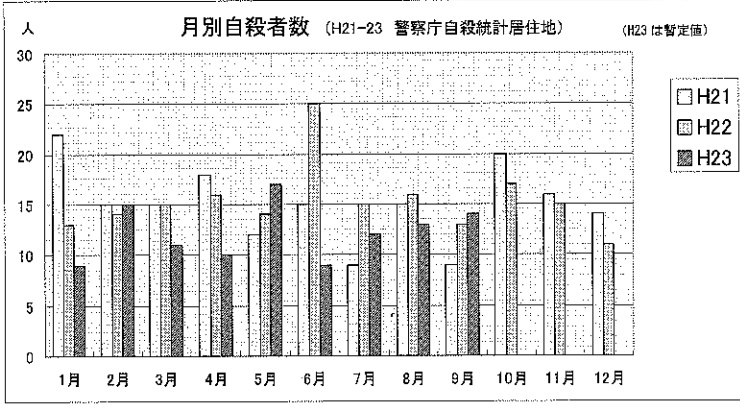
定例記者会見資料
 平成23年11月24日
 衛生部こころといのち支援担当課
 馬場副参事(3880)5432

都市型自殺対策モデルの完成をめざして あなたの悩みを安心へ「つなぐ」シートで一步踏み込んだ連携

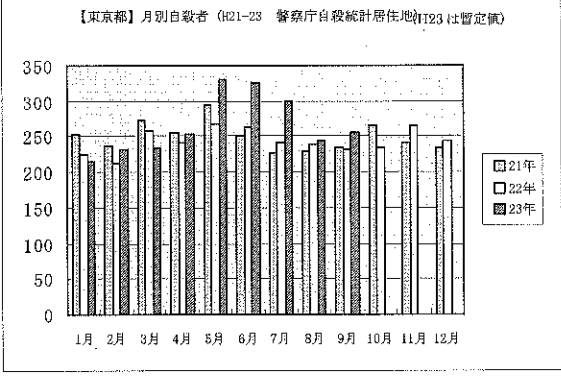
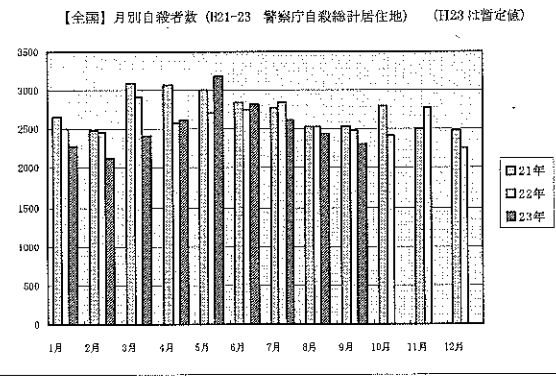
自殺対策を「生きる支援」として先駆的に取り組んでいる足立区では、この度「つなぐ」シートを全庁で活用し、より丁寧な相談窓口連携に取り組み、都市型自殺対策モデルの完成を目指します。

1 足立区月別自殺者数 平成22年10月から減少傾向

- 自殺者数の比較 平成22年1月から9月 140人
- 平成23年1月から9月 110人(暫定値)
- 前年対比 Δ30人 21.4%減(暫定値)



(参考) 全国や都の自殺者数の推移 (いずれもH23.1~9月 前年対比)
 全国:前年対比Δ834人 3.5%減(暫定値) 都:前年対比+192人 約8%増(暫定値)

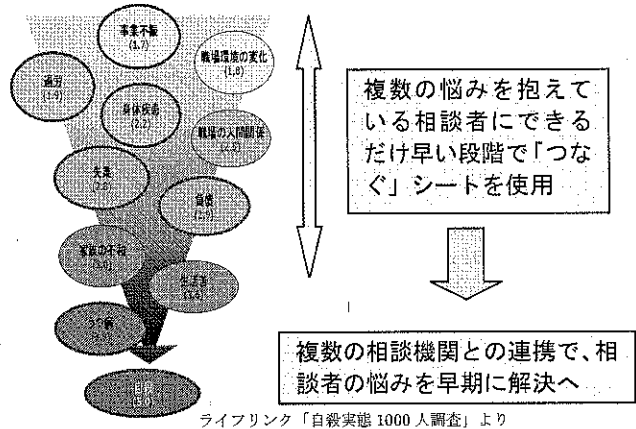


2 あなたの悩みを安心へ「つなぐ」シートを全庁で使用開始

複数の悩みを抱えている相談者をより丁寧に支援し、確実に適切な窓口につなぐため、「つなぐ」シートを平成24年1月から全庁で使用します。一步踏み込んだ連携を実現するためのツールとして活用していきます。

(1) 「つなぐ」シート作成の背景

- 自殺でなくなる前に相談機関を訪れていた人 72%
- いくつかの要因が重なり自殺に至る (平均4つ)
- うつ状態では次の窓口を訪ねる気持ちがあっても行けないままになることが多い



(2) 「つなぐ」シートのメリット

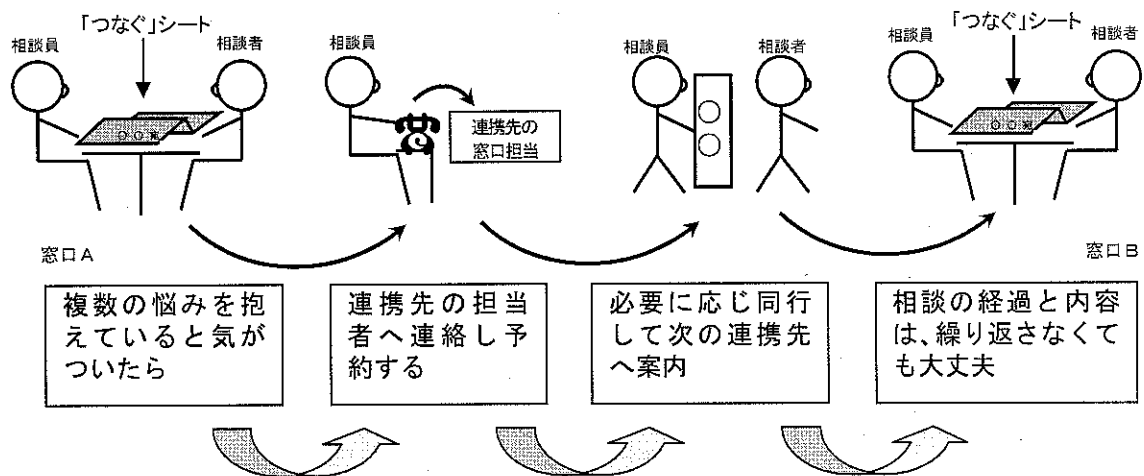
相談者のメリット 次の相談へのハードルを下げられる

- 相談場所・担当者が明確 ⇒ 安心してすぐに次の相談ができる
- 相談者の情報が確実に伝達 ⇒ 「同じ話をしなくても済む」相談者の負担軽減
- 複数の相談員が支援 ⇒ 「一人で沢山の問題を抱えている」孤立感を軽減

相談員のメリット チームで相談者を支えられる

- 相談の経過と内容が明確に ⇒ 相談員の負担軽減
- 相談結果を集約し成功事例を共有化 ⇒ 相談員のモチベーションを維持
- 区民がより多く抱える問題と連鎖が浮き彫りになる ⇒ 今後の対策に活用

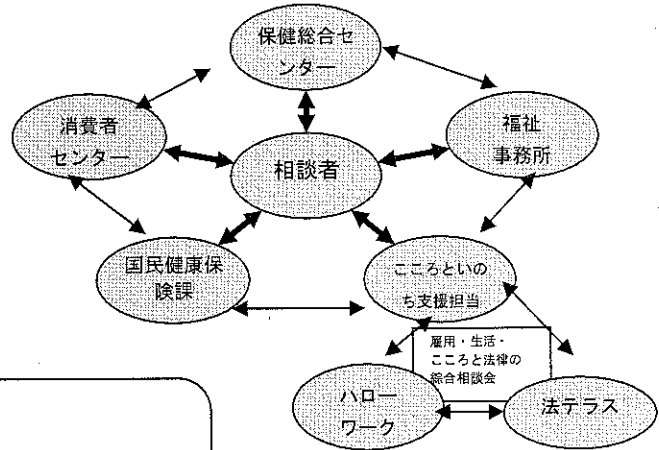
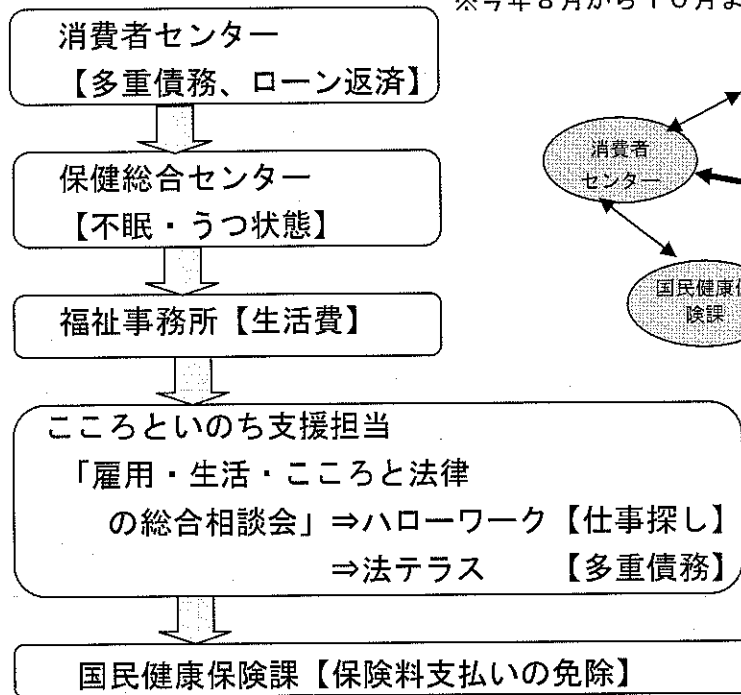
(3) 「つなぐ」シートを使った相談の流れ



(4) 「つなぐ」シートで救えた いのち

50代男性：失業・ローンが支払えない・死んでしまいたい

※今年8月から10月までの「つなぐ」シート施行期間の事例



3 次へのステップ 寄り添う支援へ

「つなぐ」シートによって、より丁寧な「つなぐ」支援が可能となります。しかし、うつ状態で一人で継続した相談ができない場合などは、寄り添う「人」が必要となり、その担い手不足が現在の課題です。今後は、相談者に寄り添いつなぐ「人」による連携サポートを強化し、都市型自殺対策モデルの完成を目指していきます。

第2回「雇用・生活・こころと法律の総合相談会」開催

雇用や生活、こころや法律などの悩みや不安を、どこにどう話したらいいかわからないといった方のための総合相談窓口です。各分野の専門家が連携し、相談者の複数の悩みについて、解決方法をアドバイス、解決への糸口を一緒に考えます。ここでも「つなぐ」シートを活用し一歩踏み込んだ連携を図ります。

【日時】平成23年11月28日（月）～12月2日（金）

受付時間はいずれも午前10時から午後4時

【場所】東京芸術センター9階 足立区千住1-4-1

（ハローワーク足立と同じ建物）

【問合せ先】 衛生部 こころといのち支援担当課長 馬場 優子

電話（3880）5432

観る訓練から実践する訓練へ 想定外をひとつでも減らしていくために

1 震災と総合防災訓練（結果を評価し今後活かす）

総合防災訓練は防災対策の集大成であり、東日本大震災を踏まえ何をテーマにすべきかを議論した結果、避難所の立ち上げが最も重要との結論に達し、訓練を実施しました。

次のステップは、この結果を適切に評価して、改善すべきは速やかに改善することです。参加者の意見等を踏まえ、課題を明らかにして今後の対策に活かします。

(1) 訓練のコンセプト

「観る訓練から実践する訓練へ 場所、内容、人は発災と同じように」

- 場所：区内18箇所の一次避難所（例年は荒川河川敷）
- 内容：学校を避難所にするための作業を、学校に備蓄してあるものを使って
- 人：地域の人が避難所を立ち上げ、地域の人が避難者として実際に参加

(2) 避難所の訓練の様子 平成23年11月13日（日）



8:20 ・発災（想定：震度6強）
家族の安否確認



9:00 ・本部長、各部員集合
・ガラスを割る場所を確認
・鍵の場所を確認



9:05 ・施設安全点検



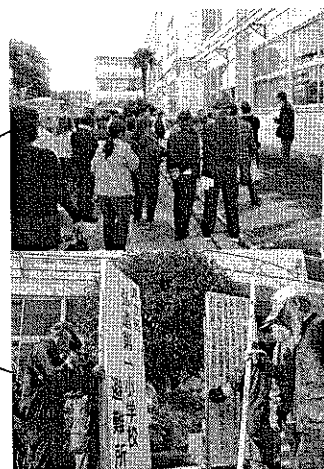
9:15 ・安全確認終了・看板設置
・防災センターに避難所の開設を無線連絡

・避難所受け入れ準備

9:25 ・避難者台帳記載場所設置

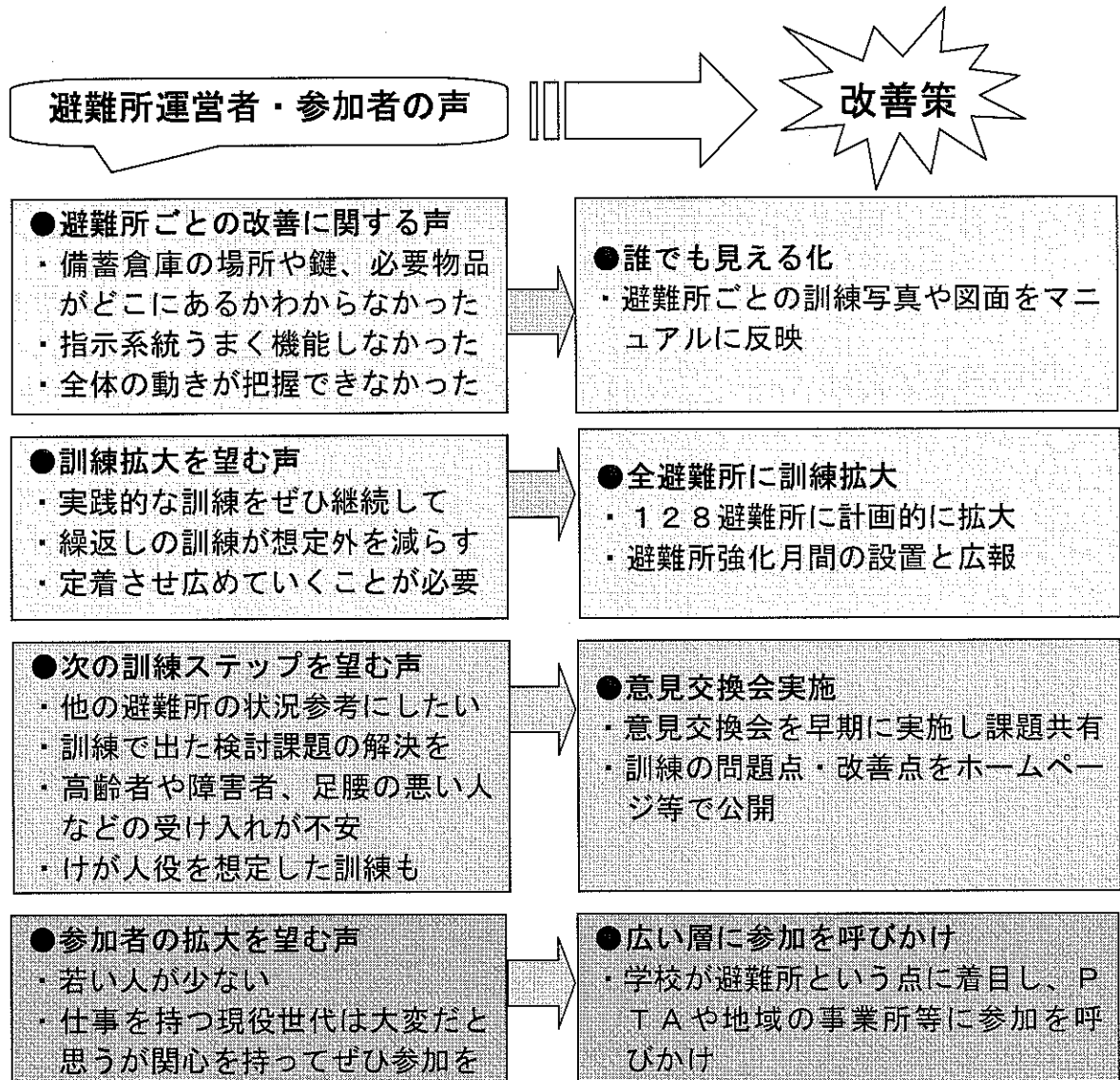
・避難所スペース区割り

9:40 ・避難者受け入れ
・一般参加者避難者台帳記載
・居室へ誘導



10:30 ・関係機関の訓練
11:15 ・一般参加者解散
11:30 ・訓練終了

(3) 6,500人を超える参加者 現場の声を次のステップへ



(4) 今後の予定

- | | |
|--------|----------------------|
| 12月下旬 | 避難所・関係機関と訓練後の意見交換会 |
| 12月～1月 | 訓練結果の検証・分析 |
| 年度内 | 避難所訓練及び総合防災訓練のあり方を検討 |

【問合せ先】 危機管理室 防災担当課長 長澤 和弘
電話 (3880) 5192

2 災害時の地域情報をより速く より細やかに（職員による生中継）

3月11日の震災でケーブルテレビの緊急放送の対応が遅れるなど、初動体制が十分でなかったことから、区と株式会社ケーブルテレビ足立が結ぶ「災害時における災害情報の放送に関する協定書」の内容を見直し、災害時の情報発信力を強化していきます。

3. 11 ケーブルテレビの状況

- ケーブルテレビの社屋に被害 緊急対応に必要なスタッフが揃わなかった
- 緊急放送の対応の遅れ 通常の番組放送で区民からの苦情も…
- 区民に向けた区長メッセージの発信は地震から4日後



3. 11の経験を踏まえ初動体制を強化

- 生中継に必要な機材を8階スタジオに設置
- 区職員がスタッフに代わって生中継の対応ができるよう操作方法習得
- 災害情報の提供に必要なFAX付防災無線をケーブルテレビ社屋に設置
- 初動対応アクションシート策定
発生直後から復旧期までの放送対応をより具体的に明示
- 緊急放送訓練を年2回実施

さらに、北千住駅西口の大型ビジョン「あだちシティビジョン」と生中継を連動させ、駅前滞留者などにも広く情報発信していきます。

【問合せ先】 広報室 報道広報課長 吉田 厚子
電話（3880）5816



足立区

定例記者会見資料
平成23年11月24日
産業経済部産業振興課
杉岡課長(3880)5865

農地保全と農業者の経営力強化のために ～足立農すくーる(農業体験型農園)が3月に開園します～

「足立農すくーる(農業体験型農園)」は、区が管理する区民農園とは異なり、園主である農家が管理・運営し、利用者は園主から農作業を教わりながら野菜づくりなどを体験する農園です。平成8年に練馬区で誕生し、以後、全国的な広がりを見せており、足立区では初めての開園となります。

1 目的と特徴

- 生産緑地など農業経営の基盤である農地を保全
- 区内農業者の経営力強化を促進
- 区民等の農業に対する理解を深める



(仮称)
中郷体験農園

(仮称)
高野ファーム



園主(農家)

- ・種や農具などを用意
- ・種まきから収穫まで、作業ごとの講習を実施

利用者

- ・初心者でも気軽に農作業を楽しめる
- ・年間20種類以上を予定している収穫野菜は、すべて利用者のもの

区の園主への支援

- ・必要な施設整備費(表示看板、ベンチ、トイレなど)を助成
- ・区民利用1区画について、12,000円/年を助成(開設から3年を限度)
- ・あだち広報や区ホームページなどで、利用者募集を援助

2 平成24年3月開園予定農園

No.	農園名	所在地	区画数(予定)
1	(仮称) <small>なかごう</small> 中郷体験農園	入谷5-3	25
2	(仮称) <small>こうや</small> 高野ファーム	興野2-31	30

3 利用概要

- (1) 区画面積 約25~30㎡(区民農園の約2倍)
- (2) 利用期間 3月上旬~翌年1月末(園主との相談により更新可能)
- (3) 利用料金 43,000~45,000円/年程度

4 今後のスケジュール

- (1) あだち広報(1月1日号)、区ホームページで利用者を募集。(申込先は園主)
- (2) 1月下旬、園主が抽選し、当選者を決定
- (3) 3月上旬、開園

【問合せ先】 産業経済部 産業振興課長 杉岡 淳子
電話(3880)5865